

平成 30 年度第 1 回長崎市総合教育会議 会議録

- 1 日 時 平成 30 年 6 月 1 日（金）13 時 35 分～14 時 51 分
- 2 場 所 第二応接室（市役所本館 3 階）
- 3 出席者 **【市長】**
田上市長
【教育委員会】
馬場教育長、中西委員、坂本委員、小原委員、吉松委員
- 4 事務局 **【市長部局】**
企画財政部政策監、都市経営室長、同室主幹、同室係長
【教育委員会事務局】
教育総務部長、総務課長、同課課長補佐、同課総務係長
同部生涯学習課長、市立図書館長
学校教育部長、同部学校教育課長、生徒指導係長、同課指導主事
- 5 次 第
（1）開会
（2）内容
①報告事項 平成 30 年度子どもに関する新規・拡大事業について
②意見交換事項 キャリア教育について
③その他
（3）閉会

6 議 事 以下のとおり

事務局 (市長部局)	【13：35 開会】 ただいまから、平成 30 年度第 1 回長崎市総合教育会議を開催いたします。お手元に配付しております次第に沿って、市長から進めさせていただきます。よろしく申し上げます。
市長	では、今日の総合教育会議は平成 30 年度の 1 回目になりますので、会議の議題に入る前に、会議の開催方針の確認と平成 30 年度の開催計画に

<p>事務局 (市長部局)</p>	<p>ついてご確認いただきたいと思います。事務局から説明をお願いします。</p> <p>お手元の資料「総合教育会議に係る基本的な考え方について」をご覧ください。</p> <p>本年度の総合教育会議の開催計画の説明に入ります前に、改めて、総合教育会議の議題や開催時期などに係る基本的な考え方をまとめましたので説明いたします。</p> <p>総合教育会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第1項に基づき設置されるもので、その会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律及び長崎市総合教育会議運営方針に基づき開催されるものです。</p> <p>このことを踏まえ、本市における総合教育会議の議題、開催時期などの基本的な考え方を次のとおりまとめました。まず、1会議の議題ですが、</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 長崎市教育大綱の基本理念の実現につながる議題 (2) 教育行政を担う教育委員会と教育行政の予算の編成や執行権を有する市長の双方の連携が必要な議題 (3) 総合教育会議において調整が行われた方向性を尊重して成果につながる議題としております。 <p>2の会議の開催時期ですが、調整した方向性を事業につなげる場合に、必要な予算措置がスムーズに行うことができるような時期とし、各年度に2回から3回開催することとします。</p> <p>次に、3の情報共有ですが、教育委員のみなさまに、市政全体の子どもに対する施策を情報共有してもらう観点から、「当該年度の子どもに関する施策・予算を報告することとしました。</p> <p>以上のことを踏まえ、今年度の開催計画については、資料2ページ「長崎市総合教育会議の開催について」の「2 平成30年度の開催計画」のとおり実施したいと考えています。</p> <p>なお、平成28年度に議題としました「子どもの貧困」については、今年度長崎県が、子どもの貧困の実態調査を行い、今年度中に各市町に対し、調査結果を示すということを聞いておりますので、その調査結果が出てから、議題として意見交換させていただくか、改めて検討させていただきたいと思います。説明は以上です。</p>
<p>市長</p>	<p>今説明がありました内容につきまして、ご質問、意見等ございましたらお願いします。</p>

	<p>会議の議題の部分は、(1) の教育大綱の実現につながるという意味で、項目だけ挙げるとしたらこれですべてを言い表してるような大きな部分ですけれども。</p> <p>(2) の部分は今回の新しい教育委員制度であったり、あるいは、総合教育会議が生まれた経緯を考えると、教育委員と市長部局がしっかり連携する中で、子どもに関するものをしっかりすすめていこうという意味では(2) を特に出して書いているということと、3つ目は、その中でもやはり、総合教育会議として議論するだけではなくて、その中から生まれたものが成果につながっていくという方向をしっかりとめざしていきましょうという中で、開催時期などについても、予算の時期などももう少し考えた中での時期の配置にしてみました。これを基本にしながら、もし緊急に必要なものがあればその都度集まれるという形にしていこうということで、最初の2回の議論の中で予算に少しつながるような形がつけられて、年度末には報告も踏まえながら次年度のことも少し種を撒けるような時期的な配置になっていると思います。</p> <p>そういう形を基本にしながら、問題や課題があれば、その都度議論していくということで進めてよろしいでしょうか。</p>
教 育 長	<p>総合教育会議が出てきた背景には、子どもたちの大きな事件があった時、即、会議が開催できるようにというのがあったので、緊急的に情報共有を図ったうえで開催する必要があるもの。そういうものはこの(3)に入っているということよろしいですか。</p>
事 務 局 (市長部局)	<p>緊急的に何か起こった時の対応ですが、もともと総合教育会議の法律に議題とすべき事項というものが別途ありますので、そこにもとづいて対応していくということになると考えております。</p>
教 育 長	<p>緊急の事故について、例にあったのは、それこそいじめに基づく自殺事案があった時などにすぐに市長部局と教育委員会が対応する。この会議も突発的にあった時については、臨時的にすぐ対応するようなことで明記された部分があります。</p>
市 長	<p>それでは、別に(4)として整理した方がいいですね。</p>
事 務 局 (市長部局)	<p>先ほど説明した総合教育会議には、法律の第1条の4というところで、第1号と第2号がありますが、第1号が今お話をさせていただいて</p>

	<p>る基本的な考え方の中身です。それとは別に、法に基づいて児童、生徒等の生命又は身体に現に被害が生じ、又はまさに被害が生ずるおそれがあると見込まれる場合等の緊急の場合に講ずべき措置というのがありますので、基本的には先ほどお話になったようなものは、法に基づいて直接行うことになるかと。そこを少し分かりやすく、今回ここに入れるかどうかというところかと考えます。</p>
市長	<p>なぜ、開催の議題なのに分割する形なのですか。</p>
事務局 (市長部局)	<p>法律に定められているようなものは、ここでわざわざ言わなくても、長崎市独自でこの総合教育会議をどのように運営していくかという基本的な方針をここに記載している。</p> <p>そのため、緊急的に集まるというのは、総合教育会議の入り口がそうなので載せておりません。</p>
教育長	<p>それなら、上の段階に法の部分と二つ並べた方が分かりやすいのでは。</p>
事務局 (市長部局)	<p>または、一番下に囲い書きでこういうものと記載する。</p>
市長	<p>そこまで書いておかないとわからないですね。</p>
事務局 (市長部局)	<p>では、下に書くように。教育長がおっしゃったことは取り入れるようにしたいと思います。</p>
市長	<p>それでは、次第に移りたいと思います。まず、最初に意見交換の前に報告事項ですが、平成30年度の子どもに関する新規・拡大事業の今年度取り組む事業について少し説明をさせていただきたいと思います。</p> <p>事務局から説明をお願いします。</p>
事務局 (市長部局)	<p>資料1ページをご覧ください。平成30年度子どもに関する事業のうち、新規・拡大事業を掲載したものです。</p> <p>まず、市長部局分について説明させていただきます。</p> <p>「1 平和学習活動費」です。これは、昨年度の総合教育会議の、「平和教育再編成について」においてご意見をいただき、改訂した「平和ナガサキ」</p>

<p>市長</p>	<p>の印刷などに要する経費で、配付対象を小学5年生から配付していたものを、小学3年生から配付するよう拡大したものです。</p> <p>「2ふるさとの森林（もり）づくり事業費補助金」は、森林植樹活動、森林の環境整備活動、森林教育・森林体験活動など森林保全に関する普及・啓発活動を行っている小学校・中学校・高校や、森林ボランティア団体に対する支援を行うものです。</p> <p>「3子ども・子育て支援事業計画策定費」は、子ども・子育て支援法に基づき、平成32年度から平成36年度までを計画期間とする「第2期子ども・子育て支援事業計画」策定に向けて、平成30年度に基礎調査等を行うものです。</p> <p>「4子育て応援情報発信費」は、子育て応援情報サイト「イーカオ」について、スマートフォン・タブレット等に対応させるとともに、より閲覧しやすくなるようリニューアルを行うものです。</p> <p>「5子ども医療対策費」は、これまで、小学生までとしている通院に係る医療費の助成対象を平成30年10月から中学生まで拡大するものです。なお、入院については平成29年10月から中学生まで拡大済です。</p> <p>「6子育て支援センター運営費」は、発達障害のある子どもや発達が気になる子どもを育てる保護者が気軽に集い、交流・相談などができるよう、発達障害支援に特化した子育て支援センターを開設するものです。</p> <p>また、子育て支援センターの運営団体に交付している運営費補助金について、子育て支援センターの適正かつ安定した運営を図るため、補助限度額を増額改定するものです。</p> <p>「7乳幼児健康診査費」は、乳幼児期の発育の最も著しい時期に健康診査を実施し、異常の早期発見と適切な保健指導を行い、乳幼児の健全な発育発達を促すもので、拡大については、新生児聴覚検査の公費負担を増額するものです。</p> <p>資料2ページをご覧ください。「8産前産後支援事業費」は、妊娠・出産期の心身の不調や育児不安を軽減するため、助産師が相談支援を行うとともに、特に支援が必要な母子に対して、デイケアやショートステイによる心身のケアや育児の支援を行うもので、ショートステイの利用期間をこれまで退院後7日以内だったものを、出産後2か月まで延長するものです。</p> <p>以上が市長部局の事業です。</p> <p>9番の「通学対策費」以降の事業については、教育委員会の事業となりますので、説明は割愛させていただきます。説明は以上です。</p> <p>平成30年度から新規に始めるものと、拡大して展開するものに限定し</p>
-----------	--

	<p>て説明させていただきましたけれども、何か委員さんの方からご質問、ご意見ございましたらお願いします。</p>
委 員	<p>あとの9から14までは学校とつながっているの、伝わりやすいかなと思うんですけども、今ご説明いただいた、事業を市民に伝える広報みたいなものはどうなっているのでしょうか。長崎市だよりみたいなものですか。</p>
市 長	<p>5月号の広報ながさきはありますか。</p> <p>予算については、他にたくさん項目がありますので、その中から抜き出して、市民に説明するような広報紙も紙面の限界の中で、子どもに限定した紹介はできていない。</p>
事 務 局 (市長部局)	<p>ひとつひとつについては、各課が行っています。子育てについては、子育て支援の「イーカオ」などホームページがありますので、そういうところでご紹介はしております。</p>
教 育 長	<p>ひとつひとつの事業については、該当者に対しての周知はそれぞれの所属が行いますが、まとめてこんな形でというのはないですね。予算の全体的なものは広報ながさき4月号に掲載しています。</p>
委 員	<p>これは初めて知りました。</p>
市 長	<p>広報ながさき4月号の6ページの右側の部分と、あと7ページの右側の部分ですね。</p> <p>先ほど教育長がおっしゃった、個別に該当する皆さんにお知らせしています。</p>
委 員	<p>せつかく制度があるので、市民に伝わればいいなと思います。</p>
市 長	<p>広報に更に力を入れるようにということでご意見をいただきたいと思っています。</p> <p>他に何かありませんか。よろしいですか。</p>
市 長	<p>では、今回の意見交換事項、キャリア教育の話題に移りたいと思います。これについては、3月20日に開催しました前回の総合教育会議で議</p>

<p>事務局 (市長部局)</p>	<p>題として意見交換を行い、委員のみなさんからいろんなご意見をいただきました。今回それを受けて引き続きキャリア教育についてご意見を伺おうということで議題となっています。</p> <p>前回からの間に、少し論点の整理や、前回の議論を踏まえた資料ができていますので、事務局から説明をお願いしたいと思います。</p> <p>それでは、キャリア教育について説明いたします。</p> <p>資料は3ページからです。前回の会議では、教育委員会が取り組んでいるキャリア教育推進事業や商工部が取り組んでいる「若年者雇用に向けた取組み」、まちに関心を持つ取組みとして「長崎LOVERS」について説明をさせていただき、委員の方から宮崎県日向市の「よのなか教室」の取組みについてご紹介いただきました。</p> <p>その後の意見交換の中で、様々な意見がありましたが、長崎市の教育大綱をはじめとする全体の中で、キャリア教育をどのように位置づけていくかを次回に向けて整理していくこととしておりました。</p> <p>これを受け、事務局においては前回の会議の中で意見がありましたように、キャリア教育というと、職業の力をつける（職業的自立）、就職に関するものをイメージしますが、それだけではなく、資料3ページのように、教育大綱の基本理念であります「長崎の未来を創るひとづくり＝まち（社会）を支える当事者を育てる」につながるものが幅広くキャリア教育の対象になるのではないかとということで、まとめた資料が5ページから14ページまでになります。</p> <p>これは、小中学生に対する既存の長崎市の事業のうち、先ほど説明した教育大綱の基本理念につながる「まちを知る」「しくみを知る」「人を知る」「生活する力をつける」「職業の力をつける」「力を合わせる体験をする」「まちを愛する気持ちを表現する」という考え方ごとに、事業を区分して一覧表としたもので、資料の5ページから9ページまでに市長部局の事業を、資料の11ページから14ページまでに教育委員会の分をまとめております。</p> <p>資料の掲載ですが、資料5ページの一番上の事業を例に説明いたしますと「長崎魅力発信事業」は、ながさきジーンという、すてきな長崎の人を通してながさきの歴史や文化・人・楽しみ方など隠れた魅力を紹介する本を発行する広報広聴課の事業で、これは、「長崎のまちを知る」につながる事業という考え方で掲載しております。</p> <p>また、「再掲3 人を知る」と記載しておりますが、この事業は、「長崎の人を知る」にもつながるものと考えられますので、資料の7ページの「人</p>
-----------------------	--

<p>市長</p>	<p>を知る」欄にも再掲しております。</p> <p>このような考え方のもとで資料を作成し、市長部局では資料の5ページの「まちを知る」ものとして14事業、「しくみを知る」ものとして7事業、「人を知る」ものとして2事業、「生活する力をつける（社会的自立）」のものとして8事業、「職業の力をつける（職業的自立）」のものとして1事業、「力を合わせる体験をする」ものとして5事業、「まちを愛する気持ちを表現する」ものとして5事業、また、これらの区分にはぴったり当てはまりませんが、事業の趣旨としては教育大綱の基本理念につながるものを「その他」として2事業、合計、市長部局として、延べ44事業を掲載しております。</p> <p>次に、教育委員会の事業ですが、資料11ページからになります。</p> <p>同じく「まちを知る」ものとして6事業、「しくみを知る」ものとして3事業、「人を知る」ものとして5事業、「生活する力をつける（社会的自立）」のものとして7事業、「職業の力をつける（職業的自立）」のものとして4事業、「力を合わせる体験をする」ものとして5事業、合計、教育委員会として、延べ30事業を掲載しております。説明は以上です。</p> <p>事務局から特に補足はありませんか。</p> <p>3ページにある図は、前回の議論を踏まえながら整理をし直したもので、一番下に「ながさきよかまちづくり基本条例」という、自分たちのまちは自分たちで良くするという考え方を示した理念条例があって、そして、それを踏まえる中で、教育大綱ではその上にある長崎の未来をつくるひとづくりを基本理念として掲げました。それはイコールでつなぐと、まち（社会）を支える当事者を育てるということではないかと、これは先日、委員さんからもお話があった日向市の事例なども基本にした、キャリア教育というより少し広い意味の考え方につながるんじゃないかということ、そこから順番に考えていくと、じゃあ当事者はどうやって育つのかという時に、その上にあるまちや社会への関心を持つということ。それから、そこで動いてる人たちをリスペクトすること、それから、実際にその協働、力を合わせるとできることがあるということ、それを体感していくということ。そういったものが教育の中にキャリア教育として埋め込まれていくという考え、整理でどうだろう。そして、そのまちに関心を持つことで、まちに対して誇りが生まれるし、リスペクトする中で、あんな人になってみたいというあこがれが生じる。それから行動することで実際に達成感、楽しさなど体感するということが出てくるんじゃないか。それをまたもう少し細かく分けてみると、そ</p>
-----------	--

	<p>ういったものがどこから生まれるかという、まちを知ることからまちへの誇りが生まれる。あるいは、まちを動かしているしくみを知ることでも大事など、それから、それを動かしている人を知ることこの3つにつながっていくだろう。それと同時に、これまでキャリア教育という一般的に整理されていた生活する力をつける、職業の力をつけるという二つの部門もこの中に当然入ってくるなかで、更に力をあわせる体験をするということも盛り込んでいくことじゃないか。それから、まちを愛する気持ちを表現するということもあっていいんじゃないか。こういったものをキャリア教育の中に埋め込んでいってはどうだろうというふうな整理をした時に、じゃあそれを具体的にどういう事業をするのかというのが、その上にまた派生して生まれてくるのではないか。その一番上に文字が書いていない丸い長いカッコがあるわけですけども、この中に入れるとしたら、今最後に説明があったような事業群がこの中に入ってくるのではないかという整理をここではしています。そこで、こういった整理についてどうかということをまずみなさんと意見交換して、その後、具体的な取組みについてのご意見もあればそれもお伺いしたいと思いますが、まず、整理の仕方について、ご意見がありましたらお願いいたします。</p>
<p>委員</p>	<p>先日、大村で市町村教委連の協議会とその後、分科会がありまして、4つの分科会のうち、第2分科会でふるさと教育というテーマの分科会があったんですけども、ふるさと教育というその括りの中に、キャリア教育のこともありまして、いろんな市町村から来られていた委員の方々からそれぞれの取組みの発表があったんですけども、私自身が非常に感じたのが、キャリアというどうしてもその産業界との関わりというのがイメージとして非常に強くなるものですから、事前に送っていただいていたこの事業一覧表の中で、例えば、長崎市の教育委員会でも「長崎の宝発見発信学習推進事業」や「宿泊体験推進事業」など、そういういわゆる地域と絡んでいくというそういうプログラムもございますので、自分のイメージとしては、ぱっと見た時に、ここはキャリア教育ではなく、ふるさと教育みたいなことの方がしっくりくるのかなと思った次第です。</p>
<p>委員</p>	<p>関連して、その前にふるさと教育へ戻ろうと思うんですが、中教審答申の平成23年の今後の学校教育におけるキャリア教育、職業教育のあり方についてというのが答申されていまして、その中で、キャリア教育に</p>

委員	<p>必要な力で基礎的・基本的な知識・技能、基礎的・汎用的能力、論理的思考、創造力、意欲・態度及び価値観、最後に専門的な知識・技能とあって、さらに人的汎用能力のこのところを具体化してほしいということで、一つは人間関係形成、社会形成能力、あと一つあると思うんですけど。</p> <p>2番目には自己理解、自己管理能力、3番目に課題対応能力、4番目にキャリアプランニング能力、という4つの具体的な内容を示してるんですが、これからすると、今、市長がおっしゃった「まちを知る」、「しくみを知る」というのは答申を超えて逆に素晴らしいなと思います。超えてるということは、キャリア教育を超えている。ふるさと教育的な内容ではあるんだろうけど。後で説明があった33、40の事業について、中教審答申の項目を通して実は私個人的に「これはあたらない」、「これはあたってるとざっと分類してみたんですけど多すぎるので、実践的、実施可能な分と、学校とか家庭とかですね。それと、ストレートに中教審答申にあげているものと擦り合わせて、精査していくといいのかなと。取り上げたいいいものがたくさんあったんですよ。そういう感じを、今、委員さんのふるさと教育という関連で、確かにこのところはそうだろうとは思いましたね。そしたら、それを長崎市のキャリア教育と言ってもいいのかなと。中身はふるさと教育だというような。</p> <p>この3ページのところは、委員さんがおっしゃったみたいに、ふるさと教育というイメージが非常にあるんですけども、私は、ちょっとキャリア教育という意味では足りないというか片寄っているんじゃないかというイメージがあって、これはこれですごく重要だけれども、キャリア教育というと、ふるさととのところとはまた超えたところもあると思うんですよ。だから、キャリア教育の一部としてこれがあるというイメージその3ページの図があるというイメージがあって、まちを知って、そのまちを知った上でそのまちのなかにあるものでの人だったり、仕事だったりを知っていきましょう。その中からいろんな能力を身に付けていきましょう。というところになっていると思うんですが、長崎にはないものが他にもあったりとか、いろいろ思うんですよ。そういうものも、もう少し取り入れられるように。もちろん、長崎にはない職業もあったりとか、長崎にはないような人たちもいたりすると思うので、長崎にはないようなまちがあったりすると思うんですよ。そういうのも全部取り入れられるような形にした方が、キャリア教育という形になるような気がします。</p>
----	---

委員	<p>キャリア教育というと職業的な力をつける教育のようなイメージがどうしてもあって、その前にやっぱり人として、自立した人になるという意味では、やっぱり、まず自分を知ることが本当に子どもたちの中にできているのかなとすごく感じてて、自分を自己肯定できない中でいろんなものを積み上げていっている。やっぱり今、キャリア教育という捉え方がいま一つちゃんと自分の中にある。職業的な力をつけさせる、自立するために、これだけのその情報社会の中で、どんなに時代が変わろうとも情報がいろんなことがあっても変わらない自分というか、迷わない自分というか、ちゃんと自分をもつ、自分を知る、みたいなことを今小学校中学校の先生方一生懸命教育してくださってると思うんですけども。そのうえで、自立する力を付けていく。だから、今、何が足りないのかなと感じた時にこのキャリア教育というという言葉が出てきたのかな。</p>
教育長	<p>委員さんが言われたニュアンスはよくわかるので、たとえば、一番下に、まち（社会）となった時にわかりやすくなるのかなと思ってますけど、長崎市だけの中でするのではなくて、上のまちを知るを（社会）とすれば、わかりやすいのかなと。その一番根っこはまず家庭を知る、地域を知る、日本を知る。そういうことかなという気がするの、まちという長崎市のまちというとらえ方じゃないほうがいいのかもしいかなと聞いてて思いました。ただ、どうしてもやっぱり、長崎市の教育大綱は長崎市を支える人材をつくりたいし、活躍しても、外に行っても、長崎市を応援する人材であってほしいし、世界に飛び出してもインシグロさんみたいに長崎を愛してくれる人をつくりたいなというのがたぶん長崎市の教育大綱だと思ってますので、そういうのは言われたように、こういう中にもそういう部分も含んでるよというニュアンスがどこかにあれば、ストーンと腑におちるのではないかなと聞いてて思いました。それともう一つは、後ろに事業がありますけど、どうしても長崎市が予算化してる事業という形になるものですから、例えば地域と一緒にやってお祭りに子どもたちが参加して、郷土の歴史を知って文化を知ってという部分が見えにくくなるので、そこの表現もあっていいかなと思ってます。</p>
市長	<p>みなさんおひとりおひとり意見をいただいたんですけども、たぶんどれも正しいと思うんですよ。どれも正しい中で、人間力というところに少し着目してる部分と、もうちょっと広めて社会人力みたいのところに見てる部分と、もうちょっと狭めて長崎人力みたいのところに着目してる部分とで、少しずつ整理の仕方も見方も変わってきてるのかなという感じがす</p>

<p>委員</p>	<p>るんですけど、そういう意味では、やっぱりベースになるのは教育大綱をベースにしながら議論をしていきたいというのがあって、それをいかに実現するかということの一つのテーマで最初から最後までそれは貫きたいなという気はするんですけども、それが教育会議の意味でもあると思うんですけども。その時に、この整理をかけるたたき台として考えるのであれば、キャリア教育というのを一つは長崎市版キャリア教育みたいな感じになるのかなと。一般的にキャリア教育というのはたぶんみなさんとちょっと言葉の使い方が違うんじゃないということになりかねない部分があって、長崎市ではこれをキャリア教育と呼んでいて、まちを愛する気持ちを養うということも、それに当事者として関わるという気持ちを育むということも、長崎市では大事なキャリアだと思っていますと。いうのがこの整理になるのかなということが一つと、それから、そういう意味では、真ん中に書いてある7つ並んであるそういった整理までが基本的な考え方で、その上にある、矢印で指してる部分はあくまでも事例であって、こういったものがその例ですよということで、実は他にもいっぱいある。地域ごとの取組みもあるし、まちの中で取り組まれてるものもありますし、そういう意味では、学校だけがやるのではなくて、まちの人たちも一緒になって、あるいは家庭でも一緒になって長崎市版キャリア教育を進めていますという位置付けになるのかなと、今お話をお聞きしながら感じました。その中で、ふるさと教育という部分に少し特化して、もし整理するとしたら、この職業の力をつけるとか、生活する力をつけるという部分が少し、ふるさと教育から抜けたほんとな一般的な部分にもなっていくという気もしますし、そこはたぶん、考え方で長崎市はこう考えるという整理をするしかないと思うんです。</p> <p>その整理をどうここでしましょうかという。その時に、その一番下の方にあるよかまちづくり基本条例だったり、教育大綱というのを必ずベースに置いて、そこからスタートして考えた時に、どういう整理をしましょうかという議論になるのかなという気がします。その時、委員さんの言われているいわゆるキャリア教育、一般的なキャリア教育にするとたぶん他のが入らないし、ふるさと教育の部分が少し外れて、おっしゃってた部分が入ってくるような感じになるのかなと思うんですけど、その整理はちょっと悩ましいですね。</p> <p>キャリア教育自体の定義というのは、中教審答申の方であると思うんですよね。社会的職業的自立に向けて必要な基盤となる能力、態度を育てるといふことだと思っんですけども、一般的にはキャリア教育とい</p>
-----------	--

	<p>うのはそういうものなんだけれども、長崎市としては、そのために必要なものとしてこういうことをやっていくんですと、それが一般的なキャリア教育にこういうふうにつながっていくんですよというふうなことを最初に明確にしておいたうえで、長崎市としてはこれをやるんですというふうな形でやっていくのがいいのかなと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>教育大綱は人づくりですので、市長がおっしゃったように、人間力、社会人力、それから長崎人力。たとえば、ひとづくりの上から下までであると思いますね。自分をということはその人間力とか人を知るとかの中で、やっていけばいいのかなということで、そういう人間力、社会人力、長崎人力などのようなそのめざす中身を事業の中に盛り込んでおけば、意図的にできるのではないのかなと。単に予算をつくって事業をする時にそこをきちっと踏まえて事業を進めるとクリアできるのかなという気はするんですね。</p>
<p>委員</p>	<p>これはこれでいいと思うんですが、この中にもう少し外部の人たちを知るだったり、長崎にはない職業を知るだったり、そういうのをこの中に埋め込むことも可能だと思うんですね。今、この事業だとそういうのは入っていないので、そういうこともその体系の中で入れられるんじゃないかな。</p>
<p>市長</p>	<p>それは面白いですね。この7つに加えて外の世界を知る。そのことが逆に長崎の良さを知ることにつながるという意味でもそれに一つ加えることで幅が広がる感じがしますね。</p>
<p>委員</p>	<p>中身としては、国際交流とか事業があつて、外との関係はいろいろできてはいるんですけどね。</p>
<p>委員</p>	<p>キャリア教育とはみたいな、キャリア教育の捉え方をわかりやすいように誰が見ても長崎市が捉えるキャリア教育とはみたいな定義があれば見やすいのかなと。</p>
<p>委員</p>	<p>整理しないといけないですね。</p>
<p>委員</p>	<p>キャリア教育だけだったら、自分の勝手なイメージでみんな捉えがちですよ。</p>

市 長	<p>そうですね、長崎市版キャリア教育というものであれば、それはこういうものだ。こういう人たちを育てていくんだ。</p> <p>その時に委員さんが言われたふるさと教育といたらその中に含まれる形になるわけですけど。</p> <p>ふるさと教育は言葉としては同じになるんですけども、言いやすいですね。</p>
委 員	<p>教育大綱の基本理念の当事者、まちを支えていく社会を支えていく当事者に育てていくというところが一番のゴール、目的とするのであれば、地域の課題を見つけたり、考えたりしながら、それをほっとけない、自分がそれをなんとかしなきゃっていうところまで持っていくということだと思うんですけども、なんかそういう標語的なもの、キャッチがあればいいのかなと。</p>
市 長	<p>キャッチフレーズね、それは面白いですね。</p>
委 員	<p>学習指導要領には新しいふるさと教育の充実というのがありますよね。どうしてもやらなきゃいけない、キャリア教育とたぶん絡めなきゃいけないんだろうなとは思ったんですけど。</p>
委 員	<p>新学習指導要領の 2030 年の社会を想定してっていうのがありますよね。それが全く予測困難なビジョンなんですよね。その中の子どもたちはもっともっと厳しい環境に置かれていくからそれに負けないようになっていこうなね。</p>
教 育 長	<p>自ら考えて判断する能力が必要ですね。</p>
委 員	<p>今ある職業の何パーセントかは失われるという。AIにとって代わられたりするんでそういう意味では新たな時代なんですよ。</p>
市 長	<p>そうですね、そういうふるさと教育がある一方で、ローカル、グローバル、先ほどの委員さんの話、グローバルな人材を育てていく。長崎に生まれて長崎に住んでいるから、じゃあ世界のことを知らないのかというとは実はそういう人が一番世界から尊敬される人だったりとかするわけで、そういう世界にどこかでつながっているような地域人を育ててい</p>

	<p>く。委員さんの意見は大事だし、そういう定義をしてもいいのかもしれないですね、</p> <p>長崎だけで通じるひとではなくてよそに行っても通じるような。そういう世界で活躍する長崎人がいてもいい。</p>
<p>事務局 (教育委員会)</p>	<p>野母崎の開校の時の話ですが、野母崎は長崎の一番端の子どもたちなんです。川原のある先生にメッセージをお願いした時に、いただいた言葉が「シンクグローバリーアクトローカリー」という言葉だったんです。頭の中は少し外を向けておきなさい。でも、動くのはそこで動くんですよというこの二つの視点がとても大事だと。アクトローカリーというところで、しっかり野母崎で動いて欲しい。でも、いつも広く見ていてねというふうなメッセージがすごく心に残って、今みなさんの話を聞きながらそういう言葉、合言葉そういうのも素敵だなと思いました。</p>
<p>市長</p>	<p>それは、長崎にふさわしい。キャリア教育、ふるさと教育もしっかり全部どこかに含めたそういうキャリア教育の定義になるかもしれないですね。</p> <p>そう考えるとこれをベースに少し、7つか8つにして、それで、少し言葉の定義とか、キャッチフレーズみたいなものを整理していくとこれも使える感じになりますね。そういう整理でいいですか。</p>
<p>市長</p>	<p>他に何か、事務局、先生方から、今、山田部長から話があったような体験を踏まえたキャリア教育に対する情報は何かありませんか。</p>
<p>事務局 (教育委員会)</p>	<p>キャリア教育という視点でもう少し大きく捉えて、この教育大綱の方針を、長崎の未来をつくるまちづくりというところがありますので、例えば、長崎みらい塾とか、7項目から8項目のなかで、子どもたちを地域で育みながら育てていくという視点も少しあっていいのかなと、その後にはキャッチフレーズとか何かあれば、キャリア教育からもう少し広がった子どもを育成するということにつながるのかなとちょっと思ったりしています。</p> <p>ふるさと教育というのは結構どこでも使っている言葉で、学習指導要領の中にもありますので、長崎独自の何かという言葉を活用しながら、もう少しみんなが子どもたちも職員たちもびっとくるような言葉を使って広げていってこんな子どもを育てたいというのがわかるような言葉になればいいなと思います。</p>

市 長	<p>キャッチフレーズと違ってネーミングの話ですよ。</p> <p>ネーミングと、定義と、キャッチフレーズは別件ですということにしましょうか。</p> <p>キャリア教育とは言ってしまうと確かに狭い感じがします。いずれにしても、教育大綱で述べている基本理念に込められた当事者を育てる。当事者教育はものすごく今、社会にとって大事なテーマで、社会と離れてみんなが自分は自分という感じになってしまうと絶対にまちは良くなるので、長崎は当事者をとにかく育て続けるというふうなそういった長崎の姿勢がしっかりここで示せるかもしれないですね。当事者という言葉も忘れてはいけない大事なキーワード。</p>
市 長	<p>他にこのキャリア教育のことで、今出たような部分を整理して、さらに磨き上げるということで、また次回報告をさせていただくという形でよろしいでしょうか。</p>
市 長	<p>事業の部分については、何かみなさんもうちょっと、全体の整理の方から入ったので、これは違うんじゃないかとか、こういうものも整理するときの事例として挙げていた方がいいんじゃないかということなどありませんか。</p>
教 育 長	<p>予算化されている事業だけでは、なかなか見えにくいというのがあって、予算化の事業じゃなくても先ほど言ったように地域と一緒になったまちにするとか、例えば、うちでやってるイングリッシュスピーチコンテストは、まち自慢を英語でさせてもらおうということで両方を狙って今やっているんですけども、それはすごくレベルが上がってきているのがあったり、あるいは、よかまちづくり基本条例に基づいて、自分たちのまちづくりのことをディスカッションしてもらっているとか、そういう出てこないところは逆に意外とやっているという気がするので、そういうのはもう少し、子どもたちがやることはいいことなんだと思うようなればいいかな。</p>
委 員	<p>ボランティア活動は基本的には予算には上がってこないと思うんですけども、ボランティア活動はどこで把握されているのかなと思うんですけども。ボランティア活動は人間力のある人たちのかなり主体的なものなので、それなども浮かび上がらせたいなという気がします。</p>

市 長	力を合わせる体験をするという。教育委員会の方でそういう学校のボランティア活動は把握しているんですか。
事 務 局 (教育委員会)	<p>活力ある特色ある教育活動という括りで冊子を作っていた時代がありました。今皆さんの話を聞きながら、総合学習というのを文部科学省が出した時の話を思い出しました。その時に身の回りのことをテーマにしながら社会的課題を考えなさいというふうな括りだったんです。その中に、地元の川を見つめながら環境問題を考えていくとかですね、ふるさとの祭りを通して人とのつながりを考えていく。そういった括りで、最初出てきた時に、どの学校も今やっているいわゆるふるさと教育であるとか郷土の祭りとか、そういった総合的な学習の時間という時間の括り中で何をやっているかというのを集めると、非常にいろんなものが見えてくると思います。</p> <p>ボランティアに関しては、生徒会や児童会でやってる活動ですので、その分野で生徒会で何をやっていますかと言えば、今何がやれているのか、学校教育課の担当がいろいろ分かると思います。</p>
教 育 長	総合学習の中では、例えば地域のクリーン作戦とかそういうのもどちらにも関わる。
事 務 局 (教育委員会)	授業レベルで見えない通常の教育活動というのもやっぱり見て行かないといけないかなと。そういうのも市民レベルのものというのは、逆に学校が知らない部分なので、見てみたいなのというのがあります。
教 育 長	前は学校の中だけが学校教育だったんですが、地域と一緒にやってというのがどんどん広がって、今は地域と共にやっていますので、地域と共に教育活動そのものを同じものをめざしましょうとですね。そういう形でどんどん広がって、非常に地域と密着して、地域の状況を知りながら、社会の状況を知りながら自分が今やっている勉強がどこに生きるのか、わかりながらすることが学力が上がるんだよとかね。そういう方向で整理していいのでは。
事 務 局 (教育委員会)	平成13年ぐらいの指導要領改訂で、総合学習というのが出てきて、今、例えば鳴海台の方たちがやっている農園活動とか、川平のビオトープの活動とか、桜町、諏訪のおくんちの活動とかそういったものは、そ

	<p>の時の括りの中で総合学習に入れていった。ですから、そういうところが多分ベースになっていってるんだらうと。それがもう10年以上経って、教育の中、あるいは地域とも一体化した。あたり前になってきていますので。</p>
<p>事務局 (教育委員会)</p>	<p>学校の方も、例えば諏訪っ子くんち、桜っ子くんち、非常にいい取り組みなんですけれども、それが逆に、ただの伝統行事を伝えるだけのものになってしまってるんじゃないかというところもあって、本当はそこから先を見ましようというのが、まさに大事な考え方なんですけれども。それを見直すためにも、こういう括りの中で、今学校でやってることを見直す大事な作業じゃないかなと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>地域で夏祭りをする時でも、子どもをお客さんにすると子どもはお客さんになるんです。スタッフにすると子どもはスタッフになるんです。そういう考え方をみんな地域も共有できると、子どもをスタッフにして、まさしく力を合わせる体験をするというところに入ってくる感じ。そういうのをみんなやりましようという。</p> <p>ボランティアだって、地域の祭りの伝承だって、学校と関係なく地域の子どもたちが地域のおじちゃんのところに行き行って祭りに参加するということもあるし、学校に把握されていないところもあるんだらうし、これ自身が学校の範囲を超えてやっぱり地域と一緒にやっていく形をめざそうというのがまさしく当事者づくりになっていくんですね。そういう呼びかけもしていいですよ。地域コミュニティの動きというのがそういうのが実現していく可能性が高いですよ。</p>
<p>教育長</p>	<p>まちづくり協議会なんかは、中学生は率先して入るように言ってますので、動いているところは結構どこも知っていますよ。</p>
<p>市長</p>	<p>ボランティア活動っていうのは子どもたちがよくボランティア活動してるまちだというのは、そういう意味ではめざす姿であって、そういうのを意識的にやってみるといのも一つの方法ではありますよね。</p> <p>砂浜でガラスを拾ったりとか、そういう活動をどこも当たり前に行っている。子どもがお客さんじゃなくてまちをつくる大事な一員で、まちをきれいにしてくれている、あるいは癒してくれている。</p> <p>長崎の場合は位置付けてやる。だからこそ当事者が育つんだ。もっとこうはっきり明示したい感じがしますよね。</p>

委員	長崎市の例ではないんですが、壱岐市の霞翠小学校は、大人も子どもも一緒になって海岸の掃除などをして文部大臣表彰を受けたんですよ。自分達のまちは自分たちできれいにしようという当事者なんです。すごく活動が活発なんですよ。
市長	女子商業高校も相当長く文化財清掃をやってますよね。
教育長	カリキュラムの中では、ボランティアはやり方を少し工夫しながら上手に組まないと。でも旗は振ってはいいいことよね。
事務局 (教育委員会)	総合学習、先ほどの話になると、地域の方からいろんな要求もあって、伝統行事をやって欲しいとか。学習教育ということになると、それだけではなく、もう少し付加価値を付けないといけないとか、単にボランティアだけではないところを見ていくとか、こういう枠組みの中に入れるのはとても大事だと思うんですよね。今やっていることに、これはどこを向いているのかという位置付けをしてあげる。
教育長	意味を持たせる。やってることに意味をはっきりさせる。
事務局 (教育委員会)	そういう作業をするためのひとつのベースになるんじゃないかなということなんです。
市長	そういう地域との連携の部分もその定義の中に入れて、整理してみましょう。
市長	他に何か。事業レベルでも。 この事業を見た時に、例えば5ページの3番目の青少年平和交流これは沖縄に子どもたちを派遣する事業ですけど、これは、先ほど委員さんが言われた外とのことにつながるし、次の6ページの一番上の「子どもゆめ体験事業」これはまさに、海外の姉妹都市などを訪問する事業なので、これも外につながって、むしろ、ちょっと無理に整理してる部分もあると思うんですけども。項目が一つできるともっと自然な整理ができるのかもしれないですね。
市長	他に、何か整理の部分とかありませんか。

<p>教 育 長</p>	<p>整理の部分じゃなくても、今、中国の修学旅行生をなるべく受け入れるようにしてるのは、同じアジア系の見た目あまり変わらないのにすごく上手に英語を話される。それを見て長崎市の子どもたちは「あ、負けてる」と思って向学心が上がるというのはあるんですけども、それこそここに出てこないけれども。</p> <p>中国に連れて行くのはなかなか問題が多くて実現は難しいですけども、受け入れるのはできるのでですね。みんなぜひウエルカムで受け入れましょう。各学校は交流事業を1つ2つ常に持っておいて、急に言われてもすぐ対応できるような形をめざしてはいるんですが、それは向こうの為ではなく、うちの子の為です。そういう意味で外を知る。改めて自分はどうしなければいけないというのが分かるのでですね。それこそ予算事業じゃないけれども、そういうことを位置付けることが、PRにもなるし、広がりにもなる。だからいいんだよと示したいですね。</p>
<p>事 務 局 (教育委員会)</p>	<p>「生活する力をつける」という4番の社会的自立の中に、そういった事業を入れ込んでいるのかなど。今の現段階ではこの枠に組み込むのか、別途、外を知るみたいな何かつくるのがいいのか。</p>
<p>市 長</p>	<p>ここは、別途つくった方がいいみたいですね。</p>
<p>市 長</p>	<p>ほかに、何かないでしょうか。</p>
<p>事 務 局 (市長部局)</p>	<p>事務局で整理する中で、確かに今ご意見で言われるように無理に入れ込んでいるので。</p> <p>今言われたような外を知るみたいなものがあれば、また少し整理がしやすいのかなという気がします。そういう観点で整理してみます。</p>
<p>市 長</p>	<p>それでは、今出たご意見を踏まえて、次回までにそういったところを整理して、平和教育が今年度から新しい形でスタートしましたが、あれも総合教育会議から生まれてきたものの一つですけども、このキャリア教育の部分についても、何か新しい形が次に示せるように少し検討をさせていただいて報告をしてもらいたいと思います。</p>
<p>市 長</p>	<p>では、続いて(3)のその他に移りますけれども、何か議題以外のこと</p>

委員	<p>でも、最近感じたことでもいいですし、何か次の種になるようなこともあるかもしれませんので、自由なご意見何かありませんか。</p> <p>さっきの議題に関わるその他ですけど、教育大綱の基本理念の当事者を育てるというところの中で、日頃から自分が思ってることなんです。私自身がアメリカンスクールで学んでいた頃にですね、何か先生に不都合と言いますか、仮に何か苦情を言いに行った場合、多分これはアメリカ人の国民性なのかもしれないですけど、必ず、君だったらどうするんだということを小さい時から言われるんです。それはおそらく各家庭でもそうだと思うんですけど、国の成り立ちとかそういう国民性の違いというのは大きいと思うんですが、これから、たとえば長崎の学校などでも先生方あるいは家庭教育の中においても、じゃあ君ならどうするんだという投げかけをしていく癖を大人がつけていかないとその当事者意識は育っていかないのかなという気がしました。</p>
市長	<p>君ならどうする運動。私ならどうするだろう運動。という感じですね。すごく大事な問いかけですね。当事者をつくるキーワード。</p>
委員	<p>日本でボランティア元年というふうな言葉が言われたのが、阪神大震災の時に全国からボランティアの人たちが自然発生的に集まってきた。そのことを分析した書き物の中に、乱世になると人は動くという。いわゆる「お上が機能しなくなった時に人は動く」という。その最たるものが明治維新だと。結局、今回のボランティア元年と言われることは、ひょっとしたら彼らはボランティアではなくて、「志士」なのかもしれないという文章が非常に印象に残っているんですが、そういう意味ではやっぱりこれから先の不確実な時代に向けて「志士」を育てていかないといけないのだろうなと思いました。</p>
市長	<p>話が少し飛ぶようですが、クロアチアという国がありますよね。そこボスニアとかセルビアとか3つに分かれたんですが、旧ユーゴスラビアで内戦10年ぐらいやったのかな、長崎にクロアチア協会があって、そこにクロアチアの大使が来られて、大使がお土産に詩集をくださったんですよ。自分が書いた日本語を使った詩集。それで、詩をつくられるんですかと聞くと、私は元々詩人ですという話をされて、その後、クロアチアに行く機会があって、大統領とお会いしたんですが、大統領は作曲家で音楽家ですね。クラシックでレベルの高い曲を作られる。何でクロア</p>

	<p>チアの人は芸術家の人たちが政治家に多いんですかと聞くと、いや、もし何もなければ作曲家であって、詩人であっただろう。国がそういう状態になった時にそんなことをしてる場合じゃない、とにかくこれをどうにか支えないと、詩もつukれない音楽もつukれないという状態だったので、やむにやまれず自分の内側から湧いてくる思いに突き動かされてみんなこの仕事を今やってるんですというお話だったんですが、今の話に通じることもあると思います。</p> <p>明治維新的なものがクロアチアでもあったんだなと。</p> <p>そういう意味では今でも若い人たちが多分僕らの世代がはたちぐらいだった時よりもやっぱりふるさとのこととか、地域のこととか地方のこととか考えてくれてるし、そこに行く人も多いし、そこで活躍の場を見つけようとする人もやっぱり多いと思う、それはたぶんそんなに大それたものじゃないとしてもやっぱりみんな感じてる人たちが増えてきてる。それが小さな明治維新みたいなものをまた起こす可能性があるということなのかな。確かに変わってきてますよね。話してるとなんか自分の若い時が恥ずかしくなるほど地域のことを考えててえらいなと思うことがありますよね。そういう話もまた次につながる話でもあるし、キャリア教育にもつながる話でもあるし。</p> <p>他に何か、雑談のようなものでも次の種になったりする話もありますので。</p>
委員	先生たちの働き方のこと。先生たちが楽しく働ければたぶん子どもたちも楽しいはずだろうなという。
市長	それも大事なテーマですよ。
委員	<p>あるいは家庭教育ですよ。お父さんお母さんがしっかりしてくれないと子どももね。</p> <p>こういう話を何かで見たんですよ。一人の子どもが育つには、家族のみんなが必要。学校の全体が必要。地域の全部が必要。というのを何かで見たんですよ。そうだなと。よく家庭・学校・地域・連携と言うけど、それを文言にしたような。そのとおりだろうなと。それぞれのところがそれを知っててくれるといいなと思いますね。</p>
市長	今、地域コミュニティの新しいしくみで、小学校区単位ぐらいで、地域の参加を、自治会だけではなくて、いろんなみなさんがおられるので

<p>市長</p>	<p>一緒になってまちを作っていくという動きをつくるというのを今年度からモデル地区を6地区つくって動き出してるんですけども、そういうような中でもいろんな防災だったり、高齢者見守りだったり、いろんなテーマがありますけど、そのうち子どもたちの長崎未来塾の地域版みたいなメニューを盛り込んでいたり、もうすでにいろんなところでも子どもたちのことはすごく大事に考えてくれるので、どこもそういう取組みをしようとしている。そういうことも共有しておく地域活動も一緒になってやれますよね。地域コミュニティとの連動というのも大事ですね。</p> <p>他に何か。事務局からは何かありませんか。</p> <p>なければ、平成30年度第1回長崎市総合教育会議を終わります。ありがとうございました。</p> <p>【14:51 閉会】</p>
-----------	---